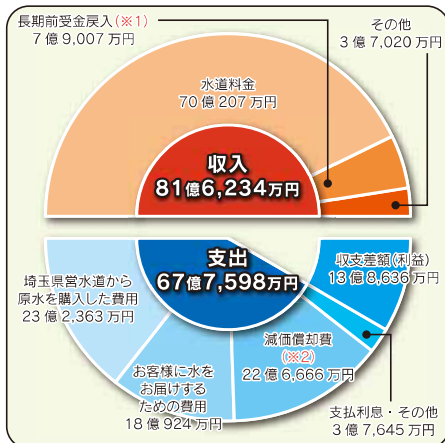


令和3年度 決算のあらまし

水道事業は、お客様からお支払いいただいた水道料金で必要な経費をまかなう独立採算制で経営しています。会計は収益的収支と資本的収支の2つからなります。12月議会で認定された令和3年度水道事業会計決算の内容をお知らせします。

収益的収支・・・水道料金などの収入と、原水の購入費用や水を届けるために必要な費用の収支です。



収入は81億6,234万円、支出は67億7,598万円でした。

外出自粛等の制限の緩和などの影響により、年間総配水量と年間有収水量が減少したことに伴い、水道料金(給水収益)は減少しました。収入全体では前年度と比べて9,698万円(1.17%)減少しました。

支出では、減価償却費が減少したことなどにより、前年度と比べて、1億4,300万円(2.07%)減少しました。

収支差額は13億8,636万円で、消費税を引いた当期純利益11億8,275万円は、翌年度以降の借入金返済などの財源として積み立て、資本的収支の不足額の補てんに使います。

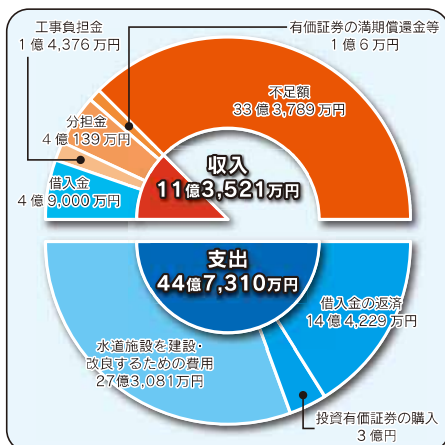
※1 長期前受金戻入

資産取得時に財源とした補助金等について、資産の減価償却相当分を収益としたもの。実際には現金の収入はありません。

※2 減価償却費

取得した固定資産を、耐用年数に応じて定期的に各年度に配分して計上した費用のこと。実際には現金の支出はありません。

資本的収支・・・借入金や加入者分担金などの収入と、浄・配水場や配水管の整備など安定して水を送るために必要な投資的支出の収支です。

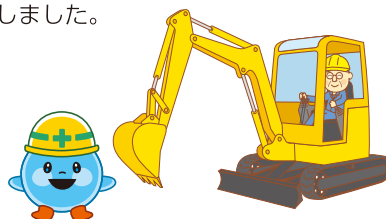


収入は、11億3,521万円、支出は44億7,310万円でした。

収入は、借入金の減少などにより、前年度と比べて4,229万円(3.59%)減少しました。

支出は、水道施設を建設・改良するための費用が増加したことなどにより、前年度と比べて2億5,889万円(6.14%)増加しました。

収支不足額の33億3,789万円は、前年度までの純利益の積み立てや、減価償却費などによる留保資金によって補てんしました。



業務量と主な事業

令和3年度の年間総配水量は前年度と比べて57万m³減少し、3,798万m³となりました。一方、有収率(※3)は0.34ポイント増加して98.65%となりました。有収水量1m³当たりの供給(販売)単価は169.89円、給水原価は147.45円となりました。

主な建設事業は、配水管の布設工事や経年化した配水管の布設替工事などで、老朽化した管路の耐震化や、築比地浄水場系基幹管路の更新を進めました。また、配水管の布設替の一部において、水の流量等を踏まえて、適正な口径の管を用いるダウンサイジングの実施に取り組んでいます。なお、令和3年度末における管路の耐震化率は0.7ポイント増加して49.7%となりました。

業務量	
給水人口	373,086人
給水戸数	168,414戸
年間配水量	37,980,530m ³
1日平均配水量	104,056m ³
年間有収水量	37,468,358m ³
有収率	98.65%
供給単価(税抜)	169.89円
給水原価(税抜)	147.45円
水道管路総延長	1,282km

※3 有収率

年間の配水量に対する有収水量(料金の対象になる水量)の割合のこと。この割合が高いほど無駄なく、お客様への給水ができていないことを表しています。

資金不足比率を公表します

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」に基づき水道事業会計の資金不足比率を公表します。

資金不足比率とは、資金の不足額の度合いを表すもので、公営企業の経営状況を判断する指標のひとつです。

企業団では、令和3年度の資金の不足額はありませんでした。

令和3年度資金不足比率報告書

会計の名称	資金不足比率(%)	経営健全化基準(%)
越谷・松伏水道企業団水道事業会計	— (資金不足額なし)	20.0

万が一、資金不足比率が経営健全化基準を上回った場合は、経営健全化計画を策定して経営の健全化に努めなければなりません。